

2020年11月27日

報道機関 各位

幕末期長崎大型古地図の複製完成披露について（お知らせ）

このたび、下記のとおり、附属図書館経済学部分館が所蔵する幕末期の長崎を描いた大型古地図を、富士ゼロックス長崎株式会社の社会貢献事業のもと、約1年半の作業を経て精巧な複製地図が完成しましたので、披露するとともに、感謝状を贈呈します。

記

【日時】2020年12月7日（月）10:30～11:15

【会場】長崎大学片淵総合教育研究棟1階 101 講義室多目的ホール
（長崎市片淵4-2-1）

長崎大型古地図について

幕末の長崎の街を描いた、縦3.5m／横4.5mの巨大な古地図が、平成29年に長崎大学附属図書館経済学部分館で発見されました。この地図には、住民に箇所銀・竈銀を分配する単位として、居住土地ごとに間口奥行を測量した値に基づく「箇所」と呼ぶ表記などが描かれています。長崎歴史文化博物館にある長崎惣町絵図と同様の地図です。詳細は別紙参照願います。



【本リリースに関するお問い合わせ先】

長崎大学附属図書館経済学部分館

担当：宮脇 TEL：095-820-6309 econlib@ml.nagasaki-u.ac.jp

幕末長崎の大型古地図について

平成29年5月経済学部分館書庫から、江戸末期の長崎の町並みを描いた古地図が見つかりました。**この古地図の大きさは縦3m50cm、横4m50cmあり、たたみ10畳分の大型**のものです。

町名はもとより、各戸の土地の間口・奥行の長さを記入されていることを最大の特徴として、おおよそ約60平方メートルの面積を一つの単位とした箇所数、町の境界線でもある溝、井戸の位置、町々の境に配置されていた番所、石橋や木製橋などの書き分けられている橋、県庁坂も昔は階段だったことがわかる階段の場所、など当時の長崎の街の様子が克明に描かれ、精巧な測量値が書かれています。

その中でも、「箇所数」に大きな意味があります。当時の長崎は対外貿易で豊かでした。潤ったお金の一部を住民に配分する長崎独自の制度がありました。それを「**箇所銀・竈銀**」といいます。そのための単位が箇所数です。

箇所銀は、土地持ちの家に、竈銀は借家世帯に、1箇所あたりそれぞれ年134匁、35匁が**年2回7月と12月に分けて支給**されました。現在の貨幣価値に換算すると、約15万円、4万円ほどになります。



眼鏡橋付近の拡大図。

石橋や石垣の石組みまで描かれています。
橋の右上の直線で区切られたところに
間口〇間〇寸と長さが書かれています。
壱ヶ所という表記も見えます。

長崎市史 地誌編（昭和12年刊）に、「長崎奉行は、精微なる箇所割大地図を製作せしめ、奉行所、長崎代官所、長崎会所に備付けしめた」と書かれています。長崎歴史文化博物館にある「長崎惣町絵図」がこれにあたります。大地図は3つの施設にあったということは最低でも3点あったことから、**見つけた古地図が箇所割大地図の内の一ではないか**という期待が膨らみます。今後、様々な視点で検証をしていきます。

また、経年の劣化で、虫食い、破れなどの傷みがあるので修復や複製を行い、一般に公開をしていきたいと考えています。

